

インターバンクの声（2015年5月11日）

しばらく上下2円ほどのレンジ相場が続けているドル円相場は、可能性は高くなかったが、ひょっとしてそのレンジを抜け出す切っ掛けになるかと思われたのが先週末の4月米雇用統計だった。市場予想通りに3月の天候要因などの影響を受けていた業種の雇用回復が目立ったものの、結果的には雇用にも一時の強さからの減速感が否めず、ドルが120円台の中盤を上抜けることもなくレンジ内での値動きが続いている。今週も週中からの米国インフレ関連指標などを手掛かりにした取引が続くと思われるが、5月20日に発表される4月の米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨を確認した上で、6月のFOMCでの利上げ決定の可能性が残るのか、或いは完全に無くなるのかを見極めに行くことになるだろう。ただ、既に市場では今年中の米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げの可能性は消えてしまったとの見方も広がり始めており、中国やユーロ圏発の材料を注視する相場にもなりそうだ。米国の利上げ時期の後ずれや利上げ自体が消えることによる株式市場の反応も大きく影響してくることになるだろう。特に、株価が理論的に高くなり過ぎているなどの声も聞かれ始めているとあって、久々に為替と株価の相関にも注意が必要かも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。